

# イラン

## Islamic Republic of Iran

	2007年	2008年	2009年	
①人口:7,410万人(2009年)	④実質 GDP 成長率(%、年度)	7.8	2.3	1.8
②面積:162万9,807km <sup>2</sup>	⑤貿易収支(米ドル、年度)	408億1,900万	320億3,900万	170億810万
③1人当たり GDP:4,460米ドル (2009年)	⑥経常収支(米ドル)	340億8,100万	239億8,700万	85億7,300万
	⑦対外債務残高(米ドル、年度末)	281億	201億	163億
	⑧為替レート(1米ドルにつき、 イラン・リアル、期中平均)	9,281.15	9,428.53	9,864.3

【注】④～⑧:イラン年度(3月21日～翌3月20日)

【出所】①③⑧:IMF(WEO April 2010), ②イラン統計局(Iran Statistical Yearbook), ④～⑦:IMF(IMF Country Report No. 10/74)

### ■景気悪化に歯止めをかけた好調な内需

近年のイラン経済は、豊富な原油収入を基にした財政支出の拡大と、低金利に伴う急速な信用拡張により牽引されてきた。2008年秋に発生した金融危機によって原油価格が下落、石油収入が減少するとともに、物価が上昇した。このため政府は、財政・金融の引き締めへ転じ、結果2009年度(2009年3月21日～2010年3月20日)の実質 GDP 成長率は1.8%と前年度の2.3%から減速した(IMF予測)。2009年度の実質 GDP 成長率の内訳をみると、原油・ガス分野は6.7%減と前年度の3.7%減に続き2年連続のマイナス成長となった。イランの原油生産量は、2008年度は前年度比2.8%減の日量394万6,000バレル。2009年度第1～3四半期の生産量も前年同期比でそれぞれ、1.2%減、1.1%減、0.5%増と低迷した。輸出量も同様に、2008年度は前年比8.5%減、2009年度第1～3四半期は、それぞれ1.7%増、1.7%減、1.3%減と低迷した。

一方、比較的好調な国内経済により、非原油・ガス分野では、2.7%の成長を記録した。イラン政府の歳入の約3分の2が石油によるものであるが、2009年度については、石油収入の落ち込みにより、歳入が大幅に減少、石油安定基金の取り崩しを行っている。石油収入が減少する中、政府は2010年度中に、エネルギー、食料などを対象に支給していた補助金の見直しを開始、5年程度で調達価格まで引き上げ、補助金制度を廃止する予定である。同政策は、中長期的には、マクロ経済に好影響を与えると評価されているものの、短期的には、支出の負担増を強いられることになる。貧困層を中心とした国民の反応を予測できず、内政上の不安定要因となっている。

### ■原油価格の下落で貿易黒字は減少

IMFによると、2009年度の輸出は774億ドル(推定値)と前年度の1,006億ドルから大幅に減少し、2006年度の水準(761億ドル)まで低下した。価格下落により、原油・ガス関連の輸出額が、2007年度の818億ドル、2008年度の819億ドルから2009年度は592億ドルに大幅に減少したことが要因。一方、非石油・ガス分野の輸出は、前年度の187億ドルから182億ドルと微減に留まった。また輸入は、2008年度の685億ドルから603億ドル(推定値)に減

表1 イランの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル, %)

	2008年度		2009年度	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(FOB)*	100,572.0	77,408.0	n.a.	n.a.
石油部門(石油・天然ガス)*	81,855.0	59,240.0		
非石油部門(石油・ガス製品含む)*	18,717.0	18,168.0		
非石油部門(石油・ガス製品含む)	18,333.6	21,274.1	100.0	16.0
その他の液化ガス製品	931.5	1,017.6	4.8	9.2
液化プロパン	1,130.5	961.0	4.5	△ 15.0
ポリエチレン	107.5	934.3	4.4	769.1
ビスタチオ(殻付き、殻なし)	727.4	927.9	4.4	27.6
メタノール	903.9	652.6	3.1	△ 27.8
液化ブタン	709.9	544.8	2.6	△ 23.3
陰極銅	357.6	535.7	2.5	49.8
パラキシレン	550.7	497.6	2.3	△ 9.6
羊毛じゅうたん	422.5	493.5	2.3	16.8
輸入合計(CIF)	56,042.0	55,189.3	100.0	△ 1.5
ガソリン	2,737.2	4,578.7	8.3	67.3
鉄鋼原料	2,766.7	2,092.7	3.8	△ 24.4
小麦	2,029.8	1,180.8	2.1	△ 41.8
コメ	794.5	1,071.4	1.9	34.9
鉄鋼製品(鉄板厚さ3mm以下)	632.3	860.0	1.6	36.0
その他ターボジェット、タービン	577.8	821.8	1.5	42.2
軽油	1,343.7	800.5	1.5	△ 40.4
ステンレス鋼	1.4	796.0	1.4	56,757.1

【注】イランの会計年度は3月21日から翌3月20日。輸出入品目の構成比は、通関統計数値から算出。

【出所】イラン税関(通関統計、非石油部門のみ公表)。

\*は IMF(IMF Country Report No. 09/74)。

表2 イランの主要国別輸出入&lt;通関ベース&gt;

(単位:100 万ドル, %)

	2008 年度	2009 年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計(FOB)	18,334	21,274	100.0	16.0
イラク	2,762	4,109	19.3	48.8
中国	2,051	3,120	14.7	52.1
UAE	2,322	2,875	13.5	23.8
インド	1,159	1,263	5.9	8.9
アフガニスタン	633	1,002	4.7	58.4
日本(14位)	589	360	1.7	△ 38.8
輸入合計(CIF)	56,042	55,189	100.0	△ 1.5
UAE	13,491	16,147	29.3	19.7
中国	4,945	4,839	8.8	△ 2.1
ドイツ	5,369	4,683	8.5	△ 12.8
韓国	3,105	3,455	6.3	11.3
スイス	3,542	2,133	3.9	△ 39.8
日本(11位)	1,344	1,423	2.6	5.9

〔出所〕イラン税関(通関統計, 非石油部門のみ公表)。

少したが、内需の好調などにより、2007年度(565億ドル)以上のレベルを維持した。

現地通関統計では、2009年度の非石油・ガス分野の輸出は212億7,410万ドルだった。品目別にみると、前年度に最大品目だった液化プロパンガスが、前年度比15.0%減の9億6,100万ドルで2位となり、前年度2位だったその他の液化ガス製品が9.2%増の10億1,700万ドルで1位となった。続いて、大型プラントが完成し順調に生産量を伸ばしているポリエチレンが、769.1%増となる9億3,430万ドルで3位となった。前々年度まで同部門で1位だったピスタチオは、不作から回復し27.6%増の9億2,790万ドルだったが、前年度同様4位だった。その他上位20品目には、羊毛じゅうたん(4億9,350万ドル、構成比2.3%)、鉄鉱石(4億5,920万ドル、2.2%)、セメント(3億8,360万ドル、1.8%)、鉄または非合金鋼のフラットロール製品(2億9,120万ドル、1.5%)などがある。

国別(非石油・ガス分野)では、イラクが41億900万ドルと前年度比48.8%増で、前年度に続き1位となった。2位は前年度3位だった中国が52.1%増の31億1,979万ドルとなり、今年度3位になったアラブ首長国連邦(UAE)(23.8%増、構成比13.5%)を抜いた。上位3カ国の輸出総額に占める今年度のシェアは、前年度の37%から47.5%まで大幅に増加した。4位はインド(8.9%増、5.9%)、5位はアフガニスタン(58.4%増、4.7%)、6位はトルコ(11.1%増、2.8%)だった。その他、国境を接する国では、パキスタンが10位(45.3%増、2.0%)、アゼルバイジャンが12位(1%増、1.8%)、トルクメニスタンが16位(39.1%増、1.6%)となり、陸路国境を接する6カ国(イラク、アフガニスタン、トルコ、パキスタン、アゼルバイジャン、トルクメニスタン)向けの輸出総額のシェアは、前年度の26.4%から32.2%に拡大した。なお、主要輸出先の中で、

韓国(7位)と日本(14位)は、30%以上の大幅減となった。

輸入を品目別でみると、国内の精製能力の増強などから、量、額ともに減少に転じるとみられていたガソリンは、量が前年度比154.73%増の780万トン、金額は67.3%増の45億7,870万ドルで1位となった。国内の需要増加に対する供給不足分に加え、国連安全保障理事会の追加経済制裁により、ガソリン等の石油精製品が禁輸措置の対象に加わるとの憶測が広がり、国家備蓄用に大量に追加的に調達した結果と推測される。前年度1位だった鉄鋼原料は24.4%減の20億9,270万ドルで2位に転落した。前年度、国内生産の不作などにより増加した穀物や食品類は、2009年度は軒並み減少したものの、小麦(11億8,080万ドル、構成比2.1%)、コメ(10億7,140万ドル、1.9%)、メイズ(7億8,360万ドル、1.4%)、ごま油(5億6,010万ドル、1.0%)、大豆(5億5,650万ドル、1.0%)などが上位に食い込んだ。その他上位10品目には鉄または非合金鋼のフラットロール製品(8億6,000万ドル、1.6%)、その他ターボジェット、タービン(8億2,180万ドル、1.5%)、軽油(8億50万ドル、1.5%)、ステンレス鋼(7億9,600万ドル、1.4%)、ノック・ダウン生産に係る自動車部品(6億2,200万ドル、1.1%)がある。なお、完成乗用車の輸入は、2008年度は過去最高の5万557台だったが、2009年度は18%減となる4万1,610台と大きく減少した。輸入車市場では、好調な韓国車がドイツ車と日本車のシェアを奪っている。

国別では、UAEが前年度比19.7%増の161億4,688万ドルで1位、中国が2.1%減の48億3,932万ドルで2位、ドイツが12.8%減の46億8,274万ドルで3位だった。その他、欧米各国は、オランダを除き軒並み減少した(スイス39.8%減、イタリア4.6%減、英国16.8%減、フランス15.8%減、ロシア28.6%減、オーストリア34.9%減、ベルギー42.8%減、米国60.8%減)。自動車、電化製品等で大きなシェアを持つ韓国は11.3%増の34億5,540万ドルで4位、日本は5.9%増の14億2,289万ドルで11位だった。

イラン投資・経済・技術援助機構(OIETAI)の投資統計によれば、1993年3月～2009年8月までに認可された投資案件は累計で522件、341億8,555万ドルとなった。全案件の7割弱の件数を、化学、食品・タバコ、機械、繊維などの製造業が占める。

2009年4月から8月までの期間で、9件507万ドルの新規投資案件が認可された。分野別では、金額が大きい順に化学(2件、132万ドル)、食品・タバコ(2件、127万ドル)、運輸・自動車(1件70万ドル)など製造業への投資が顕著だった。その他、農業分野と建設分野に、それぞ

表3 日本の対イラン主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100 万ドル, %)

	輸 出 (FOB)					輸 入 (CIF)			
	2008 年	2009 年				2008 年	2009 年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
総額	1,888.71	1,650.38	100.0	△ 12.6	総額	18,095.11	9,318.90	100.0	△ 48.5
工業製品	1,808.54	1,600.14	97.0	△11.5	鉱物性燃料	17,851.04	9,207.96	98.80	△48.4
機械機器	1,398.30	1,053.27	63.8	△24.7	石油・同製品	17,343.68	8,966.99	96.2	△48.3
一般機械	515.22	395.92	24.0	△23.2	石油・瀝青油	17,342.48	8,922.88	95.8	△48.6
輸送機械	757.38	522.63	31.7	△31.0	天然ガス, 製造ガス	507.36	240.96	2.6	△52.5
電気機械	66.59	76.19	4.6	14.4	工業製品	218.26	90.69	1.0	△58.5
金属品	190.38	387.88	23.5	103.7	化学品	189.48	70.61	0.8	△62.7
鉄鋼	172.78	365.44	22.1	111.5	金属品	14.17	7.13	0.1	△49.7
化学品	138.16	79.06	4.8	△42.8	食料品, 動物生産品	22.10	16.71	0.2	△24.4
有機化学品	21.25	21.94	1.3	3.2	魚介類	5.01	3.16	0.0	△37.0
原料品	68.05	40.38	2.4	△40.7	野菜, 果実類	6.03	3.64	0.0	△39.6

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成。

れ 1 件ずつ投資案件が認可された。地域別では、ヨーロッパの 5 件(318 万ドル)が最大で、アジア(3 件, 133 万ドル)が続いた。

### ■ 対イラン貿易額は縮小

日本の財務省の通関統計によれば 2009 年の対イラン輸出は 16 億 5,038 万ドルと前年比 12.6%減となった。輸入は 48.5%減と 93 億 1,890 万ドルと 100 億ドルの大台を割り込んだ。

日本からの輸出を品目別にみると、主力の工業製品(構成比 97.0%)は、輸送機械(31.7%)、一般機械(24.0%)がそれぞれ前年比 31.0%減, 23.2%減と大きく減少, 電気機械(4.6%, 14.4%増), 鉄鋼(22.1%, 111.5%増), 有機化学品(1.3%, 3.2%増)が軒並み増加したものの、工業製品全体では、11.5%の減少に転じた。輸送機械の主力品目で構成比 15.6%を占める乗用車(ガソリンエンジン, 1500cc 超 3000cc 以下, 15.7%減)については、完成車の輸入関税を 90%から 70%への引き下げが検討されたが、イラン政府は 2010 年度中には実施しないことを決定、国内の自動車産業に対する保護政策は継続されている。

輸入を品目別にみると、最大の品目である鉱物性燃料のうち、石油、同製品は、原油価格の下落と輸入量の減少におり、前年比 48.3%減の 89 億 6,699 万ドルとなった。2008 年、イランはサウジアラビア, UAE に続く日本の輸入原油供給国であったが 2009 年にカタールに抜かれ 4 位となり、2010 年はクウェートに抜かれ 5 位に転落すると予想されている。また、天然ガス, 製造ガスも 52.5%減と大幅に減少した。その他、工業製品は、構成する化学品を中心に軒並み減少し、58.5%減となった。輸入総額に占める割合は低いものの、じゅうたん, クミンの種, サフラン, ナツメヤシの実などは日本にとっての最大供給国, メタノー

ル, ピスタチオ, 無水アンモニアが 2 位の供給国, イチジク, 大理石などが 3 位の供給国になっている。

日本、イラン間の投資に関しては、2009 年も直接投資の実績はない。